

福祉文教常任委員会 行政視察研修報告書

【視察先】

高知県安芸市（令和7年5月21日）

高知県佐川町（令和7年5月21日）

【報告者】

委員長	豊岡	健太	P1～3
副委員長	川西	求一	P4～5
委員	森	昭人	P6～11
委員	池田	淳子	P12～13
委員	岩尾	幸六	P14～15
委員	阿部	真二	P16～17
委員	岡山	栄蔵	P18～20
委員	阿部	峰子	P21～22

行政視察研修報告書

作成者氏名	委員長 豊岡 健太	
視察先・視察日	高知県安芸市（あきし）	令和7年5月21日（水）
	高知県佐川町（さかわちょう）	令和7年5月21日（水）
視 察 目 的	地域共生社会の取り組み・あったかふれあいセンター事業（安芸市）	
	地域共生社会の取り組み・地域共生交流拠点「ぷらっとホームさかわ」視察（佐川町）	

所 感

1. 高知県安芸市

人口は約 15,400 人、面積は日出町の 4 倍強の 317 平方キロメートルで、高齢化率は 43%。安芸市議会議長らにお出迎え頂き、職員から丁寧な説明を受けた。

安芸市では、令和 5 年度に重層的支援に向けた移行準備事業を実施し、翌令和 6 年度には重層的支援体制整備事業を本格実施。特徴的な取り組みとしては、相談窓口をまとめたチラシを全戸配布し、とにかくどこに相談すればよいかを明確にしていた。窓口が明確になると相談件数は増えるが、早期に関わり、「困りごとの重症化」を防ぐことに注力。障がいのある方や高齢者に加え、生活に困窮されているといった複合型の相談が多く寄せられるようになったことから、元々は生活困窮者自立支援相談事業の定例会だったものに重層担当が加わり情報を共有する定例会（所内会）に変え毎月開催をしている。

「重層支援は各支援先に繋がれば終わり」ではなく、長期間伴走するような、終わりが見えないケースが多くなってきているとの意見が印象的であった。



他にも、集いや生活支援、介護予防を行っている地域共生交流拠点である「あったかふれあいセンター」事業について説明を受け、現地も視察させて頂いた。

あったかふれあいセンターとは高知県独自の取り組みで、子どもから高齢者まで年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができるための小規模多機能支援拠点のことで、高知県内全 34 市町村のうち、現在 31 市町村・55 拠点到整備されている。

運動・講座・創作活動・レクリエーション、買い物へ出掛けたり、人と人とのつながりの輪を広げ、行くのが楽しくなるような広場を提供しており、移動手段の無い方に対しては、週に一度ではあるが送迎も行っているとのこと。

後述の佐川町にも言えることだが、県が地域共生社会の実現に対し旗を振り、安芸市が市をあげて取り組んでいる姿勢は見習うべき点が多々あり、有意義な研修となった。



2. 高知県佐川町

人口は約 11,600 人で、面積は 100 平方キロメートルで、高齢化率は 41.7%。

佐川町社会福祉協議会会長や事務局長、ぷらっとホームさかわ施設長やあったかふれあいセンターとかのコーディネーターや担当課長から丁寧な説明を受けた。

佐川町では、社会福祉協議会が中心となり、地域福祉計画と地域福祉活動計画に基づき、「住民活動の方向性や基本的な考え方」「行政等の関係機関とのパートナーシップ」「住民主体の活動」を中心に地域福祉アクションプランを実行している。

佐川町には 5 つの地区があり、平成 21 年から順次それぞれの地区に住民活動拠点である「あったかふれあいセンター」を整備し、住民同士によるおたすけイベントで助け合いの機運を高める活動を積極的に行っていた。

斗賀野地区では「近所づきあいたすけあい 笑顔つながる里づくり」、加茂地区では「交流でつちかう絆と人づくり」というように、5 地区各地にそれぞれキャッチフレーズがあり、様々な助け合いイベントを開催し、交流や共助に積極的に取り組む様子が学べた。

前述の通り、全ての地区にふれあいセンターが整備されており、各地区それぞれが住民を中心としたイベントを開催し、お互いが助け合い、地域の幸福につながる、持続可能な地域づくりを目指し活動している様子を知ることができた。

あったかふれあいセンターは 34 市町村中 31 の自治体に整備されているが、佐川町は面積が比較的大きくないにもかかわらず県内最多の 5 カ所整備されており、それだけ早くから地域共生社会の実現に向けた取り組みを行っており、先駆的な自治体だと感じた。

面積は 100 平方キロメートルと日出町より若干広いが地区も 5 地区と、共通している部分も多く、今後の参考になると感じた。



地域共生社会とは「支える側・支えられる側」という関係を超え、人と人・人と社会がつながり、地域に住む一人ひとりが生きがいや役割を持ち、お互いが助け合いながら暮らしていける包括的なコミュニティを実現することである。

大分県は、令和6年10月の時点で高齢化率は34.4%で、日出町は31.6%であるが、今後さらなる少子高齢化は避けられず、高知県のような施策に対するニーズはますます高くなることが予想される。

今回訪問させて頂いた安芸市・佐川町の両市町は、県の方針に従い、地域で地域のニーズや課題を解消する仕組みづくりに励んでおり、大変参考になった。

佐川町では、予想されている南海トラフ地震などの災害や超高齢化社会に備えて、「日ごろからのつながりを強くしたい」と語っており、「我がごと・丸ごと・お互い様意識」という佐川町を、当委員会を通じて日出町でも意識づけに邁進していきたいと感じた。

6月11日に予定されている福祉文教常任委員会において、各委員から今回の視察を踏まえた意見を集約し、担当課である介護福祉課の方針も参考にしながら、日出町における地域共生社会の実現に向けた一歩にしたいと考える。

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	川西 求一		
視察先・視察日	高知県安芸市	令和7年5月21日	(水曜日)
	// 佐川町	令和7年5月21日	(水曜日)
視 察 目 的	地域共生社会・重層的支援の取組みについて		
研 修 内 容			
○高知県安芸市 地域共生交流拠点「あったかふれあいセンター」の現地視察を行いました。 本施設は、高知県の独自の施策の中で、子どもから高齢者まで年齢・障害の有無にかかわらず誰もが気軽に集える目的の小規模多機能支援拠点のことで県内34市町村のうち現状31市町村において整備されています。実施主体は各市町村単位ではあるものの、実施方法は、社会福祉法人・NPO法人・民間事業者等への委託によって運営されています。 令和6年度より重層的支援体制整備事業について本格的実施を行っており、地域住民を巻き込みながら関係機関と連携を図りながら、より専門的機関が必要となればそこへとつなぐ役目をはたしているとのことです。地域の人々や各種団体との交流を図ることを重要視し、介護予防に関する各種取組み、高齢者や障害を持たれている方々への配色サービス、子ども食堂の開催など多彩な事業を展開しています。			
○高知県佐川町 佐川町地域福祉アクションプラン・「プラットホームさかわ」の説明を教授していただきました。 アクションプランとは、地域福祉計画と地域福祉活動計画であり＊住民活動の方向性や基本的な考え方 ＊行政などとの関係機関とのパートナーシップ ＊住民主体の活動 となっています。 当町では、5地区の校区単位において住民の方々の活動拠点「あったかふれあいセンター」を設置している。それぞれ5地区の活動内容は様々な地域イベント等各年代層皆さんが参加できるよう考えられており、「共生」の姿が現されている。 「プラットホームさかわ」は、町社協により地域共生交流拠点として運営されている。内容としては、共生型小規模多機能型介護事業として、生活介護、短期入所、放課後等デイサービス、認知症対応型共同生活介護となっています。 職員の方々の活動意欲に圧倒されました。			
研修結果・政策提案事項等			
今回は、地域共生社会のあるべき姿、また重層的支援の取組みについて現場視察を行いました。現在社会において非常に重たい施策の一つでは、と以前から感じていたのですが、一つ一つの具体的事例や現場を体験させていただき、言葉の複雑さに紛らされることなく実際に、困りごと・支援を必要としている方々への現状行っていることの、体系化が必要であるのだなと感じました。 また両市町とも、高知県独自の素晴らしい取組みの一環の中での事業展開であります			

が、各市町の地域特性を生かした活動となっていました。

大分県との施策の差異は大いに感じられるところですが、町独自の地域福祉の考えのもとにできることから、一つでも一人でも支援の輪を広げていくが、可能でもあるし、実施すべきことであると痛感しました。

実施には、行政組織のみではできません。社会福祉協議会など実施機関など関係機関との連携が必要です。そして最も重要な組織に地域住民の参画があると思いました。

地域情報は机上では得られないと感じました。

行政視察研修報告書

作成者氏名	森 昭人
視察先・視察日	高知県安芸市・佐川町 令和7年5月20日～22日
視 察 目 的	安芸市「重層的支援の取り組み・あったかふれあいセンター事業」 佐川町「地域福祉アクションプラン」
研 修 内 容	
○安芸市 高知県東部に位置する安芸市は、人口約1万5千人、面積317km²、太平洋に面し、背後には四国山地が広がる自然豊かなまちです。温暖な気候と美しい風景に恵まれながらも、生活に必要な医療機関や商業施設も整っており、自然と都市機能が調和した「ほどよい田舎暮らし」が魅力です。高知市までは車や電車で約50分とアクセスも良好で、移住希望者にも注目されています。 安芸市は農業が盛んで、特にナスやピーマンなどの施設園芸が有名です。環境に配慮した農業が推進されており、日本有数のナスの産地でもあります。また、県内有数の柚子の産地としても知られ、農業を志す人への支援制度も充実しています。 さらに、安芸市はプロ野球「阪神タイガース」の春季キャンプ地としても知られており、キャンプ期間中には全国から多くのファンが訪れて地域がにぎわいます。 歴史面では、三菱財閥の創設者・岩崎彌太郎の出身地でもあり、彼の生家が観光スポットとして整備されているなど、文化的な魅力も豊富です。 【包括的支援体制の取り組み】 地域包括支援センターを1か所設置し、各地区の民生委員・児童委員や地域住民、社会福祉協議会、介護サービス事業所等と連携したきめ細やかな相談支援を実施しています。また、高齢者やそのご家族等から、介護、医療、福祉等生活上の様々な相談に対応し、関係機関や各制度の利用につなげながら、多くの相談に対して適切な対応を行うため、関係機関同士の情報共有や連携を深めるとともに、相談にあたる専門職のさらなるスキルアップを促し、相談しやすい環境づくりと相談支援体制の向上に努めている。重層的支援体制整備事業などによる他分野との連携促進を図ります。さらに、業務負担の軽減を図るため、国や高知県の方針に沿って民間企業等に一部業務を委託しています。 【高知型地域共生社会の取り組み】 人口減少や少子高齢化に加え、昨今のコロナ禍やデジタル化の進展などにより人と人との接触機会が減ってきたことで、地域のつながりや支え合いの力が弱まり、子育てや介護の悩み、学校生活や日々の暮らしのなかで感じる孤独など、誰もが様々な場面で生きづらさを抱えるかもしれません。加えて、最近では、ヤングケアラー、ダブルケアといった複雑化・複合化した課題が増えてきています。 高知県では、こうした課題への対応として、制度や分野ごとの「縦割り」や、「支える・支えられる」という一方的な関係を超えて、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、相互に支え合う「地域共生社会」の実現が目指し、全国に先行して、平成21年から、県民の	

誰もが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることができる高知県を目指した「高知型福祉」に取り組んでいます。例えば、子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる拠点として「あったかふれあいセンター」の整備を進めてきました。

【あったかふれあいセンター】

あったかふれあいセンターは、子どもから高齢者まで年齢や障がいの有無にかかわらず、誰でも気軽に集い、必要なサービスを受けることができる小規模多機能支援の拠点。実施主体の市町村が設置し、社会福祉法人、NPO法人、民間企業などに委託して事業を実施しています。あったかふれあいセンターでは「だれもが日中自由に過ごすことができる場所の提供」「福祉サービスに関することから生活上のささいな困りごとまでさまざまな相談支援」「独居高齢者や障がいのある人などの見守り訪問支援」「買い物や行政手続きのサポートなど生活支援サービスの提供」を必須機能として実施。現在、地域の人や団体との交流、介護予防に関する講座や体操の実施、高齢者や障がいのある方への配食サービス、子ども食堂の開催など事業を拡充しています。

○佐川町

人口1万2千人、面積101平方キロメートル世帯。基幹産業は農業で、特にニラやイチゴ、新高梨などの生産が盛んです。また、自伐型林業を推進し、森林資源の活用にも力を入れています。町産品の生産・販売強化や後継者育成にも取り組んでおり、地域経済の活性化を図っています。豊かな自然と歴史的な町並みが魅力の町です。地域の伝統を大切にしながら、持続可能な産業や観光の発展に取り組んでいます。

【第4次地域福祉アクションプラン】

佐川町では、平成20年度から5カ年計画で第1次佐川町地域福祉計画・地域福祉活動計画が策定されました。この計画は、佐川町社会福祉協議会のリードのもとで、住民参加による座談会や作業部会が設置され、丁寧に議論を重ねながら、多くの住民が関わった本物の計画であり、現在の佐川町における地域福祉の礎になっています。令和6年度から実施されている第4次地域福祉アクションプランの策定に当たっても、町内5地区ごとに2回のみらいトーク（座談会）が開かれ、この中で交わされた意見やアイデアが計画に反映されています。また、計画の推進に当たっては、町内5地区の住民組織が核となり、「みんなで福祉のまちづくり委員会」による進捗管理が毎年しっかり行われています。多くの地域住民の方々が関わり、組織づくり、拠点づくり、支え合いの仕組みづくりなど、佐川町の地域福祉は順調に成果を上げています。計画を作って終わりではなく、きちんとチェックして次の計画に生かしていく、この一連の工程（PDCAサイクル）が地域住民が主体となって行われていることが佐川町の地域福祉の強みであり、具体的な成果に繋がっています。

【あったかふれあいセンター事業の状況】

子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも気軽に集い、必要なサービスを受けることができる【高知型地域共生社会】の拠点です。日出町同様、町内5地区で地域住民がつながり、気かけ合う地域づくりのため、『集い』『集い送迎』『訪問』『生活支援』『学び』『つなぎ』等の取り組みを実施しています。

〔活動拠点は5地区〕

1) あったかふれあいセンターひまわり 【尾川地区 平成21年10月開所】

自然豊かな尾川地区で高齢者から子どもまで誰もが集い、見守り、支え合う地域づくりの推進。集落活動センター「たいこ岩」での集いやイベントの開催、見守り訪問や生活支援などの地域へ出向いた活動を通して、『身近な存在』として頼ってもらえ“あったか”を目指している。

（主な実施内容）

月：いきいき・かみかみ百歳体操

火：裁縫、ダイヤモンド体操

水：創作活動（月1回）、脳トレ（月1回）

木：3B体操（月1回）

金：自由に過ごす主な実施内容

2) あったかふれあいセンターとかの 【斗賀野地区 平成26年5月開所】

「笑顔を集めて元気発信!!」をモットーに、利用者もスタッフも笑顔で過ごせる憩いの場であり、地域の皆さんがお互い助け合い、つながる地域づくりを目指している。男性の利用者が多く、ボランティア活動も盛んである。お困りごと相談や地域の訪問を行い、見守りや各関係機関へのつなぎも行っている。集落活動センターと連携を図り、あったかふれあいセンターがより一層地域支えあいの拠点となるよう努めている。

（主な実施内容）

月：自由に過ごす日

火：いきいきかみかみ百歳体操

水：カレーの日や認知症予防ゲーム、学び 各教室

木：3B体操、いきいきかみかみ百歳体操

金：カラオケの日

3) あったかふれあいセンターくろいわ 【黒岩地区 平成30年4月開所】

4) あったかふれあいセンター加茂の里 【加茂地区 平成30年4月開所】

5) あったかふれあいセンター夢まち 【佐川地区 令和2年4月開所】

地域福祉アクションプランには、3つの重点目標と5地区毎の活動目標が示され、それぞれ地区住民の主体的な取り組み支援する社会福祉協議会と行政の役割も示されています。

【斗賀野地区計画】

地区計画策定の背景

佐川町内の人口の約25%を占める斗賀野地区は、町外からの移住も多く、少子高齢化は徐々に進んでいるものの緩やか。虚空蔵山などに囲まれた盆地で自然に恵まれた静かな田園地帯が広がり、その地勢や気候を利用した水稻、ニラなどの農業が盛んな地区となっている。また、地区内にはJR斗賀野駅・襟野々駅があり、国道494号が地区の中心部を通るなど、交通の便は比較的よい。平成17年に設立したNPO法人「とかの元気村」を中心とし、あったかふれあいセンターや集落活動センターでの地域活動が活発で、風土と合わせて、斗賀野地区に魅力を感じた町外からの転入者も多い。比較的コミュニティー活動が活発な地域ではあるが、計画策定に当たって実施した地域のお世話役さんに対するアンケートによると、今後取り組むべき課題として、自主防災活動、地域コミュニティーづくり、高齢者障害者への生活支援が上位にあがっており、地域の絆や人のつながりを大切にし、高齢者等へのお困りごとへの対応も必要だとの思いが現れている。また、自然環境、健康づくりに対する住民意識が高く、環境活動や介護予防・健康づくり活動なども盛んな地域でもある。

研修結果・政策提案事項等

目指す姿・スローガン

近所づきあい たすけあい 笑顔つながる里づくり

重点目標

- ゆたかな自然をまもりつなげる
 - ◆田園風景をいつまでも守っていこう
 - ◆ホタルが住みつくきれいな川にしよう
 - ◆地域の植生と山野草を守っていこう
- 安心して暮らせる地域をつくる
 - ◆近所づきあいを大切にしよう
 - ◆あったかふれあいセンターを核として地域のネットワークを強め支え合おう
 - ◆地域で子どもを育てよう
- 健やかなこころと体をつくる
 - ◆適度な運動をし、年に1回は健診を受けよう
 - ◆規則正しい生活習慣を身につけよう
 - ◆積極的に集いの場に参加しよう
- 元気なひとづくり・地域づくりをする
 - ◆居場所と出番をかまえて生きがいがいづくりにつなげよう
 - ◆集落活動センターを拠点に地域活動を充実発展させよう
 - ◆空き家を活用して、移住を推進しよう
 - ◆地域の文化・伝統を守ろう
 - ◆子どもに豊かな体験を充実させていこう

○防災活動を充実させる

◆自主防災組織の活性化を進めよう

◆発災時に生かせる防災訓練や防災学習を定期的実施しよう

推進主体

みんなで福祉のまちづくり委員会斗賀野地区部会

関係組織

NPO法人とかの元気村、斗賀野地区自治会長会、斗賀野よさこいクラブ、斗賀野地区自主防災組織連絡会、とかの女子会、高知県農業協同組合斗賀野支所、JA女性部、(農)トピアとかの、斗賀野中央保育園保護者会、永野保育所後援会、斗賀野小学校PTA、町消防団斗賀野分団、サロン・百歳体操世話人、民生委員児童委員、福祉委員・地域の拠点とかの元気村役場、あったかふれあいセンターとかの、集落活動センターあおぞら・・・など

高知県では、令和4年10月に実施された、全市町村長、全社会福祉協議会会長、そして知事による「高知家地域共生社会推進宣言」に基づき、「分野を超えた『つながり』を意識した行政の仕組みづくり」と「『つながり』を実感できる地域づくり」の2本柱を中心に、地域共生社会の構築に向けた先進的な取り組みが展開されています。



具体的には、制度やサービスの狭間に落ちこぼれることのないよう、行政が主体となって分野を超えた多機関協働型の包括的な支援体制、すなわち「たて系」の整備を進める一方で、地域のつながりの希薄化という現代的課題に対応するため、地域住民同士のつながりを再生・強化する「よこ系」の仕組みづくりを推進しています。この「たて系」と「よこ系」を組み合わせるようして支援体制の基盤を築いていくという、非常に象徴的かつ実

実践的なアプローチは、高知県独自の「あったかふれあいセンター」事業として結実しており、「高知型地域共生社会」の具現化に向けた動きが着実に進んでいることを感じました。この事業は、県が主体となって構想し、市町村に対して事業費や技術支援などの形で手厚いサポートを提供しているため、財政的・人間的に限られた市町村にとっては、極めて実行可能性の高い形で地域福祉の推進を図ることができるようになっていきます。県主導での事業展開は、単なるトップダウンの施策とは異なり、市町村が自主性と熱意をもって取り組めるような柔軟な枠組みになっている点が非常に印象的でした。

一方で、例えば大分県では、今年3月に地域福祉計画が策定されたものの、共生社会の実現に向けた具体的な活動計画やアクションプランが明示されておらず、県下18市町村を横断的に束ねて動かすような推進体制が不十分である印象を受けます。その意味では、今後の展開においては、財政措置や人的支援も含めて、県が旗振り役としてより積極的に関与していくことが求められると強く感じました。

今回、安芸市、佐川町の視察を通して特に心を動かされたのは、こうした取り組みの背景に「やらされている」雰囲気が一切ないということです。むしろ、それぞれの市町で情熱をもって事業に取り組んでいる職員の姿勢が極めて前向きであることが伝わってきました。中でも、事業を先導し、地域住民や関係機関と活発に連携している女性職員の存在が大きく、情熱と使命感に溢れるその活動ぶりは非常に印象的であり、地域共生社会の実現にはこのような人材が不可欠であると痛感しました。

もちろん、研修の場では語られなかったようなご苦労も多々あるのだと思いますが、それを乗り越えて「やりがい」を見出しながら活動しているその姿は、まさに共生社会の「希望」であり、今後の地域福祉にとって極めて重要な要素だと考えます。こうした職員がより力を発揮できるよう、我々議会としても、活動環境を整え、温かく見守り、応援することが必要です。

我が日出町でも、高齢者のみの世帯や一人暮らし世帯の増加に伴い、日々の相談件数が増えており、緊急対応が求められるケースや、孤独死といった深刻な問題も現実として起きています。さらには、いわゆる8050問題、生活困窮、障害など、多層的で複雑な課題を抱える世帯が増加傾向にあります。地域社会を支えてきた自治会や老人クラブ、子供会といった基盤も弱体化しつつあり、コロナ禍の影響もあって地域活動そのものが大きな過渡期を迎えている状況です。

結局のところ、これらの課題解決には、人材と財源の確保に加えて、町長や行政職員、議会、そして町民一人ひとりの「熱意」と「覚悟」が何よりも重要であると再認識しました。本委員会においても、佐川町の5地区それぞれで作成された具体的なアクションプランを大いに参考にしながら、日出町においても同様の取り組みが展開できるよう、今後積極的に協議・検討を進めてまいります。

行政視察研修報告書

作成者氏名	池田 淳子
視察先・視察日	高知市安芸市・佐川町 令和 7 年 5 月 20 日・21 日・22 日
視 察 目 的	重層的支援の取組み・地域共生社会の取組み
研 修 内 容	
【高知県安芸市】 安芸市は人口 15,377 人、高齢化率 42.9%。 令和 5 年度に移行準備事業（多機関共同事業）を実施。内容は、相談窓口をまとめたチラシを作り、広報で全戸配布。窓口は、市障がいふくし係（安芸市いろいろ相談窓口）と安芸市社協（地域ふくし相談窓口）。チラシを見た他市町村在住者からの相談もあることから、気軽に相談できる「相談先」を求めていることがわかる。（他市町村の相談にはさすがに対応できないとのこと） 相談の内容は、障害または高齢プラス困窮の複合型が多いとのこと。 令和 6 年度より重層的支援体制整備事業を本格実施。 人口の規模がちょうどよい、横のつながりができていた、など「重層的支援がやりやすい」との捉え方や、今後も増えるニーズに対して『知らなかったら支援しなくていいわけではありません』という姿勢に感心させられた。 ◆あったかふれあいセンター◆ 「あったかふれあいセンター」は、高知県独自の取組として、①制度サービスの隙間を埋め、②子どもから高齢者まで、③年齢や障害の有無にかかわらず、④1ヶ所で必要なサービスを受けられる小規模多機能支援拠点として平成 21 年に創設。 実施主体は市町村で、高知県の 34 市町村のうち 31 市町村（55 拠点）で実施している。実施方法は、社会福祉法人や NPO 法人、民間企業などに委託している。 あったかふれあいセンターの活動は、センターだけで完結するのではなく、地域住民や関係機関と共に取り組んだり、より専門的な支援へつなぐなど、地域住民を取り巻くさまざまな人や資源と連携して取り組んでいる。 【高知県佐川町】 佐川町は人口 12,013 人、高齢化率 40.9%。 佐川町では、佐川町地域福祉アクションプラン・あったかふれあいセンター・ぷらっとホームさかわの説明を受けた。 佐川町地域福祉アクションプランとは、地域福祉計画と地域福祉活動計画を足したもので、行政計画と住民と社協がつくる計画を根拠としている。その内容は、「住民活動の方向性や基本的な考え方」「行政等の関係機関とのパートナーシップ」「住民主体の活動」となっている。 ●第 1 次計画での組織づくりでは、5 つの地区組織ができた。 ●第 2 次計画での拠点づくりでは、それぞれの地区に住民活動拠点整備を行っている。（5 つの地区組織すべてに「あったかふれあいセンター」が設置されている）	

●第3次計画での助け合いの仕組みづくりでは、おたすけイベントで助け合いの機運を高めている。5つの地区組織がそれぞれが特色ある活動を行っている。

●第4次計画での持続可能な地域づくりは現在進行中。

助け合いの活動を地域のイベントとして捉えて取り組んでいることは発想の転換だと感じた。

◆ぷらっとホームさかわ◆

「人と人をつないで幸せの輪を広げる」をテーマに掲げ、佐川町社協・地域共生交流拠点ぷらっとホームさかわは運営されている。

実施事業は、共生型小規模多機能型居宅介護事業として、通いと訪問と泊りが行える小規模多機能型居宅介護、生活介護(障害者通所)、短期入所(障害者宿泊)、放課後等デイサービス(障害児通所)と、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)となっている。

一つの建物の中で、子どもから高齢者まで過ごす光景はまさに、共生社会の見本とも言うべきものであった。

調査研究・政策提案事項

両市町とも、高知県独自の取組である、「あったかふれあいセンター」が地域の受け皿になっており、地域のコミュニティが充実していることが伺えた。

地域共生社会が求められる背景には、障がい、介護や子育て、生活困窮など、地域住民が抱える様々な課題を縦割りの支援では対応できないケースが顕在化していることにある。

重層的支援のニーズは今後も増えることが予想されるが、いつでもどこでも相談できる体制づくりが重要だと思う。

現在、日出町での福祉に関する支援事業のほとんどは日出町社会福祉協議会に委託をしているが、人材確保にも限界があるだろうし、増えていくニーズに対応するためには、地域の力も必要と考える。

県の取組みとして行っている安芸市・佐川町のように一足飛びにはいかないだろうが、町が仕掛けを作ることも考えるべきと思う。

福祉に係る職員は専門の有資格者でなくてもいいとは思いますが、相談内容もデリケートな部分もあるし、長く関わることで信頼関係も築けると思うので、できれば異動のスペンは長めにする方がいいのではと思う。

行政視察研修報告書

作成者氏名	岩 尾 幸 六
視察先・視察日	高知県安芸市 令和7年5月21日（水） 高知県佐川町 令和7年5月21日（水）
視 察 目 的	安芸市→重層的支援の取り組み 佐川町→佐川町地域福祉アクションプラン
研 修 内 容	
1、安芸市 ○安芸市の概要 ・人口15,377人で65歳以上は6,594人で42.9%と高齢化社会である。 ・特産物は、園芸ハウスでピーマン・茄子の産地である。 ○特徴 ・市の面積は面積317.16km²と広いが、市・社協・事業所が顔なじみであり、重層的支援体制の支援として、市民の様々な問題を気軽に相談できる窓口を9通りに分け毎月定例会を開催していた。 ・子どもから高齢者まで、障がいの有無に関係なく誰もが集う場所を目指す「あったかふれあいセンター」事業で地域が活性化することが出来る資源マップを活用していた。 ・資源マップには各地区のキャッチフレーズを謳い、地区ごとの事業や区民の為の移動販売車の計画などを記載している。 2、佐川町の概要 ○人口11,666人で高齢化率は41.7%と高齢化が進む町である。 ・特産物は、稲作、ニラ、イチゴ、しょうが主力で420年続く司牡丹酒造が有名である。 ○特徴 第5次総合計画に基づいて町民と行政が一緒になった町づくりを進めており、住民の活動拠点「あったかふれあいセンター」を整備し地域のイベントや高齢者の見守りなどを進めている。 実施機能として、生活支援や高齢者訪問、子供と高齢者間の集いや、移動手段の持たない方の移動手段の確保、百歳体操や交わる場づくり、生活支援ではボランティア活動ではつながり・支えあいの地域づくりが盛んで、ボランティアへの参加は登録申請書があり、自分ができる仕事を選択でき自由に誰もが参加出来る仕組みが存在している。	

研修結果・政策提案事項等

今回研修に行った、安芸市も佐川町もあったかふれあいセンターを拠点として、人との繋がりを大切にした地域共生社会を目指して活動を展開していた点は参考になった。

日出町も、地域共生社会の実現を目指しているが、地域での活動に温度差が生じていると感じるが、今回研修した安芸市・佐川町共に取組んでいる、各地区ごとに、目指す姿やスローガンを定めた活動を進めてはと感じた。

行政視察研修報告書

作成者氏名	阿部 真二
視察先・視察日	高知県 安芸市 令和7年5月21日 高知県 佐川町 令和7年5月21日
視察目的	安芸市の重層的支援の取り組みを学び本町の政策へ反映する。 佐川町の地域福祉アクションプランを学び本町の政策へ反映する。
研 修 内 容	
《安芸市》 日時：2025.05.21 10:00～ 場所：高知県安芸市役所 安芸市の重層的支援の取り組み（地域共生社会の取り組み） ・年3回市内16地区を回り、まちづくり懇談会開催 ・専門職でなくても取り組める ・相談窓口を明確にし、広報でチラシ全戸配布 （現在も改訂しながら毎年配布を継続している） ・困りごとの重症化を未然に防ぐ対応が必要 ※担当者の熱意が重要 あったかふれあいセンターの取組み（あったかふれあいセンターとは高知県独自の事業） ・行け男（イケメン）フライデー ・お貯筋（おちょきん）フライデー ・農福連携・なす詰め ・買い物レクリエーション／SunSun カフェ ・あき元気応援マイレージ 参加によりポイント付与、40ポイントで1000円 ・地域の代表者が窓口となり対応	
	

《佐川町》

日時：2025.05.21 14:00～

場所：佐川町

地域福祉アクションプラン（スローガン：人とひと つながれひろがれ 我が町さかわ）

- ・ つながり（組織）づくりからスタート～住民活動拠点整備～おたすけイベントで助けあいの機運を醸成～
- ・ 人が繋がることで地域の幸福に発展
- ・ 活動予定を広報と一緒に配布
- ・ 社協あんしん生活支援センターよりつながれる
- ・ おたすけ大作戦（1回／年）ボランティアにより生活支援を行う
- ・ 病院が無料で送迎している
- ・ 買い物代行を実施（コロナ禍で感染防止）

※個人の困りごとは地域の困りごとでは？と気づき対応

- ・ 人財は宝（とかの地域）
- ・ 人は他人と関わり、つながることで幸せを感じる。



研修結果・政策提案事項等

今回の視察研修で感じたことは、高知県は県主導で「あったかふれあいセンター」を展開し、既存の制度サービスの枠組みを超えて、1ヶ所で必要なサービスを提供する施設を全県（34市町村のうち31市町村55拠点）で創設しており、高知県の福祉に対する思いの強さを感じた。特に訪問した両市町では職員（従事者）の熱意の高さに感銘を受けた。

【政策提言】

- ・ 定期的にまちづくり懇談会開催する
- ・ 相談窓口を明確にし、広報でチラシを全戸配布し周知する
- ・ 個人の困りごとは地域の困りごとと捉え行動する
- ・ 買い物代行を実施（買い物難民対応）
- ・ ボランティアを募り生活支援（粗大ごみ収集、草刈り、大掃除など）を行う

行政視察研修報告書

作成者氏名	岡山 栄蔵
視察先・視察日	高知県 安芸市 令和7年5月22日 高知県 佐川町 令和7年5月22日
視 察 目 的	安芸市 地域共生社会の取組について 佐川町 //
研 修 内 容	
○安芸市 地域共生社会の取組について (I) 重層的支援の取組 ●令和6年度より重層的支援体制整備事業を本格開始 ◇多機関協働事業 ・市障害ふくし係・社共2か所の相談窓口体制を継続 ・プラン策定、重層的支援会議の実施（社共へ委託） ◇アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 ・あったかふれあいセンターの車両経費（訪問の際に使用する） ・社共、あったか、市で積極的に訪問支援 ・座談会等で地域に出向き、地域の方から情報提供を受ける ◇参加支援事業 ・対象者の個別性に応じた居場所支援を行う（市担当職員給与） ・中高生や若年層など、これまで支援が薄かった年齢層への関わり ・（仮）有償ボランティアの仕組みづくり ※現在協議中	
研修結果・政策提案事項等	
● 初めに、安芸市での「重層的支援の取組はやりやすい！」という職員の言葉には驚いた。なぜならば『重層的支援』は多岐にわたり、終わりの見えない常に変化していく支援であると認識していたからだ。研修を受ける中で、日出町が真似できる点がいくつかある。安芸市の人口は、1万5千人程度で対象者の名前を聞けば、なんとなく分かり、支援者が重複し、市・社共・事業所が顔なじみであるということ。もともと横のつながりは出来ていて連携は日頃から当たり前になっていること。 都市部と違い田舎ならではの住民との繋がりや日出町でも共通するところはあるのでは？と感じられた。しかし、実際に重層支援を始めると、急に現場訪問が増え、予算協議が大変であるとの意見もありました。いずれにしても、『重層的支援』のニーズは今後増える一方で、日出町としても先進地の事例等をしっかりと調査研究し、「困りごとの重症化」を防ぐ重層支援をさらに構築していくべきと考える。	

研 修 内 容
○佐川町 地域共生社会の取組について (1) 佐川町地域福祉アクションプラン 個別の福祉施策だけでは支援が困難な地域生活課題へ対応するため、町全体での包括的な支援体制づくりを始めとした施策の推進を図り、より身近な地域から、校区、町全体へと重層的に多様な主体が協力し、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指し、お互いを尊重し、助け合うことのできる人の循環が地域活性化につながることで、活気のあるまちづくりの持続性を住民自身が生み出す「持続可能な地域づくり」をテーマに「第4次佐川町地域福祉アクションプラン」を佐川町社会福祉協議会と協働で策定している。 (2) あったかふれあいセンターとかの あったかふれあいセンターの目的は、子供から高齢者まで、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる拠点を整備しており、地域のニーズの把握や課題に対応した小規模多機能支援拠点としての活動を行うことと、要配慮者の見守りや生活課題に対応した支え合い活動などを行う地域福祉活動を推進する事業 ※高知県独自の事業 (3) ぷらっとホームさかわ 社会福祉法人佐川町社会福祉協議会 福+祉=福祉 ふだん(普段)のくらし(暮らし)をしあわせ(幸せ)に 社協はしあわせを増やしていく団体。
研修結果・政策提案事項等
● 地域福祉アクションプランは5地区がそれぞれの地域の特色を生かした活動を展開している。1次計画から3次計画を、平成20年から令和5年まで計画・実行しており、地域の一体感→異質・多様性への寛容さ→向社会的行動→多世代共生を実現している取り組みであった。 ● あったかふれあいセンターとかのについては、とかの元気村ビジョンをベースに住民参加・地域振興・あったかふれあいセンター・とかの集落活動センターあおぞら活動を基軸として住民の想いに沿った活動を展開している。 ※指定管理事業・・・公共施設の管理運営(元気村運営資金) ①あおぞら公園管理事業②わんぱく広場管理事業(虚空蔵山)③町道・河川整備等 ※あったかふれあいセンター事業 2014年～ ①利用者ニーズに寄り添った沿った運営②集落活動センターを活用して更なる活動拡大③会員による事業支援(ボランティア活動)・・・お助け大作戦 ※集落活動センター事業 2017 ①貸館事業やイベント開催で住民活動の拠点②地域団体を応援③次世代にバトンをつなぐ(わかもの交流会) ※地域交流・イベント支援事業 ①たらふく秋まつり開催②健康ウォーク③とかの作品展④周辺地域関係団体との交流

目指す姿として、ともに支えあいながら誰もが排除されることなく安心して自分らしく暮らせる地域・我がごと・丸ごと・お互い様意識をもち、他人と関わり、つながることで幸せを感じ、地域住民一人ひとりが、住み慣れた大好きなこの地域で、生きがいや、やりがいを感じながらともに支え合い、安心して自分らしくずっと暮らせる地域づくりを実現するための取り組みがしっかりと出来ている。

● ぷらっとホームさかわについては、

1. 共生型小規模多機能型居宅介護事業

・小規模多機能型居宅介護(通い訪問泊り) ・生活介護(障害者通所) ・短期入所(障害児者宿泊) ・放課後等デイサービス(障害児通所)

2. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)を実施しており、『社会的包摂』

「誰もが排除されることなく、すべての人に居場所と役割のある社会」を目指し、独自の社会福祉を行っている。特性のある子ども達は、大勢の子ども達のなかでは馴染みにくい子がおおい。高齢者は、希望や楽しみの少ない環境の中にもかかわらず、自立を求められる。そんな中、みんなが同じ空間で過ごす共生型は子どもたちの出番や役割が多く可愛がられ、高齢者は母性父性が自然と発露されみんなの心が動いて互いに必要とされるため、誰もが誰かに必要とされる共生社会を実現している取り組みが印象的であった。

行政視察研修報告書

作 成 者 氏 名	阿部 峰子
視察先・視察日	令和7年5月21日（水） 10:00～高知県安芸市 市役所・あったかふれあいセンター 14:00～高知県高岡郡佐川町 交流拠点ぷらっとホームさかわ
視 察 目 的	地域共生社会の取り組み
研 修 内 容	
<地域共生社会の取り組み> とにかくいいものを見せていただきました。 熱量が伝わってきました。 《安芸市》 16 地域に分かれてそれぞれの地域で集まりをしている。 100 円カフェあり、いきいき、音楽、ダンス、書道から気功まであり、なんでもありなすの産地で、ちゃっかりなす詰めの日もあり、お年寄りだけでなく子どもまで！ よりつきの悪いところは車3台で対応、元気ばすも運行。 「ボランティア活動」「介護予防活動」でマイレージ手帳にスタンプ、商品券やごみ袋ゲット 移動販売や直売所、宅配弁当もあり、医師会、歯科医師会、薬局も、訪問歯科診療も。 ○重層的支援の取り組み 保護係・こども係・障害ふくし係が一体となって安芸市いろいろ相談窓口 安芸市社協が地域ふくし相談窓口 県社協も加わり、毎月定例会 ○あったかふれあいセンター事業 （受託者は有限会社西田順天堂東部店） 高齢者、障がい者、子どもなど、いろいろな世代が過ごせる場所 2カ所のサテライトがあるのも参考に。 《佐川町》 佐川地区計画、斗賀野地区計画、尾川地区計画、黒岩地区計画、加茂地区計画 第1次計画（H20～H24）地区組織ができ、防災問題からつながりづくりへ 第2次計画（H25～H29）住民拠点ができる 第3次計画（H30～R5）おたすけイベントで基礎ができる ○一定の形になるのに時間がかかる。 ○人のつながり・活動により、地域の幸福度が向上。 ○佐川町社会福祉協議会が大事な役目をしている。	
研修結果・政策提案事項等	
政府のシナリオで、要支援、要介護1,2の訪問介護とデイサービスは 地域支援事業へ、などのあるなか、いろいろな工夫がされていました。地域の活性化や人と人のつながりを大切にすること、補助金をどこからひねりだすか、など、担当の方々の大変な努力が	

見て取れました。

さて、日出町です。豊岡地区、藤原地区、大神地区など分かれて、それぞれボランティアと共に「結い」のブロックができるか…無理。難しいと思う。①窓口を復活させる。②社会福祉協議会の方たちと心通わせ展望を語る。③それぞれの地区で区長・老人会・民生委員・子供会などと話し合いをもつなどのおもいはあるが、政策提案にはもっと時間がほしい。